

教育長 　　ただ今から会議を非公開とする。
　　前回と同様に委員の発言が特定されないことを条件に後日議事録を公開することについてお諮りする。よろしいか。

全員 　　よい。

教育長 　　それでは議事録を公開するというのでよろしく願います。

日程第 3 議案第 44 号

「平成 31 年度使用小学校用教科用図書の採択について」

教育長 　　日程第 3 議案第 44 号「平成 31 年度使用小学校用教科用図書の採択について」事務局より議案の説明をお願いします。

事務局 　　議案第 44 号「平成 31 年度使用小学校用教科用図書の採択について」、教育委員会の決定を求めるものである。お手元にお配りした、別紙資料「小学校用教科用図書採択に係る調査研究答申」により種目ごとに説明する。調査研究答申の各教科の総合所見の欄を読んで提案する。

　　まず初めに、国語について、「総合的に展開する単元を配列したり、『つながる』として既習事項、『ひろがる』として発展学習へつながるヒントや学ぶ方法を明記していて、内容が充実している。児童の意欲を喚起するような創作する活動や関連本の紹介も多くある。明確な視点があり、振り返りも分かりやすい。また、紹介された関連本や推薦本の冊数は全学年で 574 冊と、5 者の中で最も多く、読書意欲の向上や学校図書館との関連も期待できる。以上の理由から、総合的に判断して『東京書籍』が最も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長 　　ただいま事務局から、選定委員会における答申を踏まえた提案があった。これについて、質疑あるいは意見があれば願います。

全員 　　ない。

教育長 　　選定委員会の意見通りでよろしいか。

全員 　　よい。

教育長 　　それでは国語は、東京書籍で決定する。続いて、書写を行う。事務局より提案をお願いします。

事務局 　　「巻頭における『学習のめあて』や『はってん』等、発達段階に応じた『学習の進め方』が掲載され、題材ごとに整合性のあるめあてや振り返りが設定してある。また、書く姿勢や鉛筆・筆の持ち方、第 3 学年以上の毛筆学習の筆使い等の指導が具体的かつ丁寧で分かりやすい。以上の理由から、総合的に判断して『教育出版』が最も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長 　　意見があれば、願います。

全員 　　ない。

教育長 　　書写は、教育出版で決定してよろしいか。

全員 　　よい。

教育長
事務局

それでは、書写は、教育出版で決定する。続いて社会の提案をお願いします。

「児童の動機付けのために『つかむ』という欄を設け単元のはじめに設定した上で『学びのポイント』、『話し合ってみよう』、『調べるポイント』等、学習の流れを具体的に示しながら学習が進むように工夫されている。また、児童にノートのまとめ例を挙げ、ゴールイメージをもたせ、書くことを通して学習を深めさせようとしている。さらに、発展的な学習に関する内容も充実しており、各単元にバランスよく設定されている。以上の理由から、総合的に判断して『東京書籍』が最も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長
全員

社会について、意見があればお願いします。

ない。

教育長
全員

それでは社会は東京書籍でよろしいか。

よい。

教育長
事務局

それでは、社会は東京書籍で決定する。続いて、地図の提案をお願いします。

「内容の構成、配列が、日本・世界・資料と整理されている。また、地図の約束ごとや使い方などの基礎的・基本的なことが最初に説明され、使いやすい。また、イラストや写真も多く取り入れられている。巻末には、地震・火山の災害と防災のページを設け、災害を防ぐ工夫や防災マップづくりの手順を示している。以上の理由から、総合的に判断して『帝国書院』が最も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長
全員

意見があればお願いします。

ない。

教育長
全員

地図は、帝国書院で決定してよろしいか。

よい。

教育長
事務局

それでは、地図は帝国書院で決定する。続いて算数の提案をお願いします。

「全学年・全単元で『復習』『練習』『たしかめ』によりスパイラルに学習ができるようになっており、基礎・基本の学力の確実な定着に結びつく工夫がなされている。『面積』の求め方の工夫では、辺の長さが与えられていない図形を提示して、自ら考える力を養うことができる。また、第4学年は、巻末に分度器(透明シート)が付属しており、児童が自由に使うことができ、学習に主体的に取り組むことができる。さらに、全学年『学びを生かそう』の掲載により活用力の向上が期待できる。以上の理由から、総合的に判断して『啓林館』が最も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長
全員

意見があればお願いします。

ない。

教育長
全員

算数は啓林館でよろしいか。

よい。

教育長
事務局

それでは、算数は啓林館で決定する。次に、理科の提案をお願いします。

「実験から考察までが1ページ又は見開き2ページになるように表記してあ

り、その流れや内容をつかみやすい。また、『理科につながる算数のまど』（全学年）では、算数科の学習内容を活用出来るよう工夫している。さらに、『地域資料集』（5・6年）で身近な自然と学習内容との関連を図り、その中に庄原市の地層やクジラの化石等も紹介されている。以上の理由から、総合的に判断して『啓林館』が最も適している。」ということである。審議をお願いする。

教育長 何か意見があればお願いしたい。

全員 ない。

教育長 理科は啓林館でよろしいか。

全員 よい。

教育長 それでは、理科は啓林館に決定する。続いて生活の提案をお願いする。

事務局 「学習内容について段階的に構成されており、興味・関心を高めながら身近な人々・社会・自然と関わる活動を通して自らのことや生活について考え、生活する上で必要な習慣や技能を身に付けることのできる構成となっている。また、外での活動に役立つ『たんけんブック』も充実している。以上の理由から、総合的に判断して『啓林館』が最も適している。」ということである。審議をお願いする。

教育長 意見があればお願いしたい。

全員 ない。

教育長 それでは、生活は啓林館でよろしいか。

全員 よい。

教育長 生活は啓林館で決定する。続いて音楽の提案をお願いする。

事務局 「楽曲が多く、多様な曲を選曲している。学年ごとの学習内容も、巻末に掲載されており分かりやすい。また、ポイントも同じマークで示している。著名な音楽家からのメッセージも掲載されており、児童の学習意欲を向上させる工夫がみられる。リコーダー等の学習においても、情報が多く解説も充実している。以上の理由から、総合的に判断して『教育出版』が最も適している。」ということである。審議をお願いする。

教育長 音楽について何か意見があるか。

全員 ない。

教育長 それでは、音楽は教育出版でよろしいか。

全員 よい。

教育長 音楽は、教育出版で決定する。続いて、図画工作の提案をお願いする。

事務局 「学習のめあてや活動内容が絵や短文でわかりやすく掲載されている。また、創作のための材料や創作過程が写真等で示されているため、児童の創作意欲にもつながる工夫がみられる。以上の理由から、総合的に判断して『日文』が最も適している」ということである。審議をお願いする。

教育長 図画工作について何か意見があるか。

全員 ない。

教育長 では、図画工作は日文でよろしいか。

全員 よい。
 教育長 図画工作は日文に決定する。続いて家庭の提案をお願いします。
 事務局 「教科の特性上、実習が多いことから、実物大の写真が多く、まねることで学習
 ができるようになっているのでわかりやすい。特に左利きの児童には包丁の持ち
 方や裁縫の仕方などが視覚的支援となっており、指導しやすい。また、教科書に書
 き込めるところが多くある。以上の理由から、総合的に判断して『東京書籍』が最
 も適している。」ということである。審議をお願いします。

教育長 家庭について何か意見があるか。
 全員 ない。
 教育長 家庭は東京書籍でよろしいか。
 全員 よい。
 教育長 では、家庭は東京書籍で決定する。最後に保健の提案をお願いします。
 事務局 「体の発達・病気・薬物に係る具体的な資料が豊富で、説得力がある。また、災
 害・犯罪被害などの今日的課題に対応している。自分自身の生活を振り返り、これ
 からの健康で安全な生活への見通しをもてる内容となっている。以上の理由から、
 総合的に判断して『学研』が最も適している。」ということである。審議をお願い
 する。

教育長 保健について何か意見があるか。
 全員 ない。
 教育長 それでは保健は学研でよろしいか。
 全員 よい。
 教育長 保健は、学研に決定する。
 教育長 それでは最後にもう一度確認する。
 国語は東京書籍、書写は教育出版、社会は東京書籍、地図は帝国書院、算数は啓
 林館、理科は啓林館、生活は啓林館、音楽は教育出版、図画工作は日本文教、家庭
 は東京書籍、保健は学研。

以上、検討したとおり、議案第 44 号「平成 31 年使用小学校用教科用図書につ
 いて」採決を行う。賛成の委員は、挙手をお願いします。

全員 (挙手)
 教育長 全員賛成なので、議案第 44 号「平成 31 年使用小学校用教科用図書について」
 教育長 採決された。なお、小学校の場合は 1 年間の使用となっており、結果的には、これ
 まで使ってきたものを継続して使うということである。

日程第 4 議案第 45 号

「平成 31 年度使用中学校用教科用図書の採択について」

教育長 続いて日程第 4 議案第 45 号「平成 31 年度使用中学校用教科用図書の採択に
 ついて」、事務局より議案の説明をお願いします。

事務局

議案第 45 号「平成 31 年度使用中学校用教科用図書採択について」教育委員会の決定を求めるものである。こちらについても、別紙資料「中学校用教科用図書採択に係る調査研究答申」により説明をする。別紙の 4 ページの総合所見の欄をご覧いただきたい。

総合所見について、『特別の教科 道徳』が新設されるにあたって、どの学校においても、授業の質が確保されることが望まれている。『廣 あかつき』は、各者とも取り上げている共通教材が 19 編と最も多く、道徳教材として長く読み継がれてきた名作や心に染み入る物語が多く取り上げられている。最初の目次において、価値項目を示さず、生徒が多様な意見を出しやすい構成になっている。また、『考える・話し合う』で発問を示すことによって、生徒が主体的に考え、学ぶことができる。さらに、別冊『中学生の道徳ノート』が内容項目ごとに構成されており、生徒自身が自らの在り方を振り返り、自己の成長を実感することができるようになっている。『東京書籍』は、広島にゆかりのある資料が多い上、現代的な課題等として SNS をめぐる問題や近年生じた自然災害をもとに考えを深めることができる資料があり、生徒が自分の事として考えることができる。また、イラストやマンガなどが効果的に掲載されており、生徒にとって分かりやすく考えたいくなるような構成になっている。さらにつぶやきを書く欄やみんなの意見を書く欄、心情円などがあり、生徒の心の動きを書いたり、表現したりするための工夫がある。以上の理由から、総合的に判断して、『廣 あかつき』及び『東京書籍』の 2 者を選定する。」ということである。審議をお願いする。

教育長

先程の選定委員会の答申において、2 者の意見があった。それらも踏まえ、意見をお願いする。

○

この調査研究の答申とは関係なく、教科書を見た時に 1 つサイズの大きなものがあった。他の教科書と比べて負担になるのではないかと感じた。中身以外の問題であるが、教科書の表紙が 2 枚貼ってあるものがあり、扱いにくく少し変わっている。また、ノートが付属しているものもあると思う。

日本教科書は、我が家の湿り気具合なのかもしれないが、開いていたら表紙がめくれて丸くなった。これもいかなものかなと。教科書を手にとって、扱いやすい・読みやすい・開きやすいという感じが 1 つは大事なのかなという印象がある。

それから、各者の趣意書に書かれている編集の方針等を全部読んだが、多くがポイントを示していたり、学習指導案の例を 2 つぐらい出してあったり、どれが中心発問ならいいかという資料があった。以前ノートが必要かどうかについて、議論があったことが参考になっているのかは分からないが、指導の資料として、ワークシート等の例が付いている解説もあった。しかもそれもすぐ印刷すればできるものや、教師がパソコン等で修正出来る電子資料というか、そういうものも付いていて、ノートがあるかないかを意識したのかなという気がした。

学習指導要領に基づいてとか、必要な項目がどうかとか、どういうものを選んだかというのは、さすがどの発行者も大変よく研究されていた。そういう中で、中身

はどういう教材を扱っているのかがポイントかなという気がした。他にも感じたことはあるが、たちまちのところは議論の元になればと思ひ発言した。

教育長

最初にいろいろな思いや感想、あるいは2ヶ月間教科書をいろいろ見られたと思うが、そのことを踏まえて、自由に意見を出した後、議論の柱を示そうと思う。その他、意見はないか。

○

各者の教科書を読んでいくうちに、1番は中学校の道徳の授業を庄原市はどうしていくのかというところが決まれば教科書が何か見えてくるのかと思った。いろいろ観点別、5つの観点12の視点が示されているが、あの中で私は発問のところを特に重きを置く必要があると思う。

教育長

その他、意見はないか。

○

昨年の小学校の道徳の教科書の選定に当たって、やはり1つ大きなテーマになったのが別冊のノート。ノートがあるかないか、ということで小学校の時にはもう少し別冊のノートを付属していた発行者があった気がしているが。今回で言えば、あかつきと日文の2者だけとなっている。選定委員会の答申の中にも、ノートがあるのであればあかつき、ノートがないのであれば東書というような答申であった。小学校と中学校では基本的な考え方が違うのかもしれないが、小学校の時にはノートを使うことによってその組み立てがしやすいのではないかとということと、それを使うことによって、どの学校でもある程度のレベルの道徳の授業ができるのではないかとということがあったと記憶している。この度の中学校のものを見れば、その2つのノートが、明らかに性格が違う。これで、正直少し戸惑ってしまった。日文でいけば、筋書きができてしまっている印象を持ってしまい、ただ中学校で授業を組み立てていく中で、同じノートとはいえ、あかつきのノートは自由度が高いし、高度な組み立てもできやすいのかもしれない。だから、別冊のノートがある・ないということが小学校の選定の時に1つ大きなテーマであったので、中学校でもノートが必要であると考えべきなのか、中学校においては考えなくてもいいのかという議論が先に来るのではないか。

○

私もずっと教科書を見ている間に印象に残ったのが2者ある。読んでいて落ち着くのはあかつきであった。全者の教科書に「足袋の季節」という教材があるが、そこに挿絵が掲載されている。ずっと見比べて、川に果物かごを投げ込むというシーンが出ている教科書と、出ない教科書がある。私は東書の教科書のように、弱さと向き合っているところの果物かごが川に流れていくところの挿絵がない方が、中学生向きかなと思った。おばあさんの顔だけしか写っていない、本人の顔は写っていない、そういうところは、あかつきよりは東書がいいなと思ったが、選定委員会の答申を聞いて、あかつきと東書で迷っている。

○

日文もノートが付いているが、LGBTが載っていた。それは道徳の時間ではなく、他の教科で、他の領域のところでき取り組むべきと思う。東書は巻末で切り取りが出来るという工夫がある。1年間の振り返りや心情円とか。また、他者と比べ絵的にも違う。読書で広げる道徳もあるので、中学生には感じがいいのかなと思っ

た。一方、あかつきのノートを使って書くこと・読むことで視野を広げて、書くことで自分の考えを確かにするというところで、書くことが大事かなと、2者で揺れ動いている状態である。やはり読むことだけではなくて、しっかり書くこともないと自分の考えが深まらないと思う。でも現場の先生は大変かなと考えているところである。

- いろいろ意見が出た。私も全般的なことを言うと、8者とも良い話が多くて、考えさせることが中心となっているが、こんな時にどうすればよいのかじっくり考え葛藤もして深い議論ができるようにするためには、教師の力量に左右されることは大変大きいかなと思う。
- 非常によく工夫された、練られた教科書が多く作られているというのがまず第一印象である。本来なら、もっと教科で学ぶべき内容も実は含まれていると思った。どういうことかと言うと、例えば外国の飢餓問題や発展途上国に対するボランティア活動、それから高齢化社会の問題や絶滅危惧種の生物のことなどは社会問題としては重要であるが、教科の中でもこれは十分取り上げていける内容である。したがって、ここに決め手となる材料になるかどうかという気持ちをもっている。やはり道徳では、自分自身のこと、それから人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然崇高なものとの関わりといった項目内容があるが、人としてのありようとか、優しさや思いやりだとか、強い精神力といった観点などをもっともっと考えてみる必要があるのではないかなと思った。スポーツ選手やスポーツマンシップを取り上げている教科書も随分あったが、このことから子供たちは何を学ぶのか。個人の努力や業績を讃えることなのか。礼儀やルールを守ることなのか。友情や生きがいを見つけることなのか。など視点は様々であるが、よくよく内容を読んで展開を考えないと、子供たちの情報量や思い込みの中で終わってしまう可能性もあるのではないかなと思った。学ぶことは幾つもあるが、やはり展開を考えないといけないことも改めて感じた。
- 先程出ている視点に付け加えて、私は道徳の評価の問題があるが、それはどのように扱っているのか、教材数がどうなっているか、そもそも道徳科を立ち上げるといふきっかけとなつたはじめの問題はどうなっているのか、さらには、価値項目をどう扱っているのか、地元の教材があるから非常に入りやすくしてある工夫点をどう見ると様々あるが、あくまでもそれは工夫であって本質はどういう教材が中身に含まれているか。その教材でいかに子供たちが考え悩み、次への生活を満たすためにどうするのかという、そういう練られた教材がどれだけ含まれている教科書なのか。というところが1番重きを置くことではないかなと思う。これは、いろいろ教材を読んで、そういった点も十分加味というか最も大事にしなくてはいけないところではないかなと思っている。

教育長 皆さんから1通り意見をいただいた。議論の柱を絞りながら、話をしたいと思う。最初にあった別冊の道徳のノートがあるのか、ないのかということであるが、この点について少し補足意見があればお願いしたい。

- 日文の別冊ノートは単元ごと教材ごとに、ストーリーが決まっている。そしてそこにカチッと決められて、展開が出来るようなノート作りがある。あかつきは同じ別冊ノートがあっても、項目ごとに整理されて、教師の裁量・進み具合によっていろいろ自由に使えるという扱いがされている。また、他者は、別冊ノートはないけれども教科書の中にワークシート的なものもある。

教育長 その点から、書く活動は非常に大事であるということも議論になったが、その点について意見をお願いします。

- ノートのことであるが、要するにこれは両方と考えると量が多すぎるが、選択肢を増やしていくという観点から言えば、非常に有効な手立てなのかなと思う。逆に言えば、日文のノートは、もう一体化してしまっている。だから型通りにどんどん進んでいく気がする。ノートということでその答申にあるように、あかつきの方が踏み込んでいこうと思ったときに利用しやすいと思う。

教育長 その点についてはどうか。

- まず、自分の考えを記録するノート・ワークシートなり必要かどうかについては、あったほうがよいと思う。本人の振り返りにもなるし、そこから、自己の成長や状況を確認することができると思う。それから、個を励ます個人への評価という観点にも対応できると思う。書くことによって考えも深まる。別冊のノートは、あかつきと日文に付いている。そうでないところも、ワークシートを印刷すれば出来るように用意はしてある。

- 今まででも中学校はどの指導者でも、どの学級でもだいたいワークシートを印刷したものを持たせていたということもあり、いるのはいるけど果たして印刷をそのためにするのは、先生方の負担がどうなのかと思う。日文のノートは3つ発問的なものとまとめたものがあるが、それが道徳的価値というか、そこへ迫る発問が全部押さえてあるか疑問な点があった。例えば「登場人物の心情を考えましょう。」という文と必ずしも道徳的価値、色々葛藤するべきところと一致しない部分があったりもするように思う。その点について、指導者が道徳をしっかり指導していくというポイントになると思うが、それが果たして一致した部分があったのかどうか疑問が少し残った。昨年、小学校道徳の教科書を検討する時も、別冊があるあかつきと日文の両者がよいのではないかということもあった。しっかり検討して選択できるのではないか、絞れるのではないか、という意見もあった。そういう観点でいうと、指導者の工夫というか、それに生かされると思う。私の意見としては、ノートそのものは必要であると思う。

教育長 その他どうか。もし別冊があるのを選ぶとすればそういった自由に裁量がある、そして子供たちが自ら授業に振り返りができる、ある程度、道徳的な価値も授業の工夫によって求めていくことができるものがあるということなどの意見があった。それから、自分の考えを書くということを通して、生徒の学習状況等を把握するという点において、別冊のノートがあることで、わざわざワークシートを作らなくても、非常に有効に活用できるのではないかと思う。

続いては、教材のポイントについて教材の中身や、気付き・補足等について、あるいはこういった点がどうよかったやこれは課題であるというのはいかがでしょうか。その中に、いじめの問題等を含めても結構である。意見を願います。

○ いじめの問題に関しては、東書はユニットとして、3時間続きの構成になっているが、私はバラバラの各学期であったほうが良いと思った。直接的な課題と間接的な課題を取り扱っている教科書とそうでない教科書とあるが、東書は直接的な課題が書いてあったのかなと思った。間接的な課題を取り入れた教材があったほうがより内容が深まるのかなと思った。いじめ問題に関して東書はどうかと思った。

○ 私も同じような感じを受けた。もう少し発問を考える必要があると感じた。生徒がなかなか自分事として考えにくいような展開になっているのではないかと感じた。なんだか、導かれていってしまうような感じがした。

教育長 このことは道徳の授業をどうつくっていくかという庄原市のことにも関連してくると思うがいかがか。中身を考えた時に、主な発問をどのように構成するか、もう少し詳しく言えば、資料をどう扱って、主発問をどのように構成するか、終末は何を考えさせながら道徳的な価値や道徳実践力に結びつけていくかというところがあると思う。そのような点を含めて意見があればよろしく願います。

○ 発問という観点で見ていく中で、選定委員会の答申にもあるあかつきと個人的には学図が良いなと思った。あかつきは選定委員会が答申で示していたような内容だったが、学図に関しては3段階発問があつて最後に“見つめよう”というところで、考えを自分の中に落とし込む発問になっていた。道徳というのは自分自身のものの考え方とか見方とかを深める授業なので、最後に自分自身を見つめる発問になっているのが良いのかなと思った。

教育長 その他どうか。

○ まずいじめ問題についてはどの教科書も何らかの形では扱ったと思うが、先程あった東書についてはマンガから入っているのもどうかと実は私も思った。取っ付きやすいという評価はあるかもしれないが、マンガを使用していじめのない世界という形で、そのものを簡潔に取り扱っていたり、連続でユニットとして取り扱ってあったり、その取り扱い方かどうかなというのも疑問がある。それから、あかつきで言うと、いじめ防止の観点から別冊にも関連した資料を記載する、そして命の尊さを一方で結びつけながら教材を広げているところもある。光村はいじめ防止という観点、さらに学図はマークを付けながらやっており、いずれもいじめ防止という観点での教材作りがしてあったと思う。

○ 教材の中身について言えば、学図は昔からある定番の内容がたくさんあった。感動する話とか勝負ごとがあつて落ち着いた感じもした。一方では、今日的な課題の障害者の問題とかジェンダー問題などは、もう少し取り入れても良かったのではないかという印象も一方であった。教材から言えばあかつきが、価値項目に沿って自分なりに考えをもつ時間ができるし、生活を振り返ることができる構成がされている。中身は心を打つような話や、考えさせるような話・身近な問題などよく考

えられた構成があった。また、学習が深めやすくなっている。取り扱った教材を比べてみると、複数の発行者が扱っている共通教材があかつきには19作品ある。それだけよい教材が多くあることも感じた。参考までに言うと、複数の発行者が扱っている共通教材は、学図は16、学研が16、日文が14、日本教科書が14、教育出版が10、東書が8、光村が8という傾向にあった。

教育長

その他中身や進め方・いじめ等々の問題はどうか。

○

他になければ少し、各発行者の教科書に感じることを言うと、どの教科書にも感謝の気持ちをテーマにした内容があるが、特に「ありがとう」とか、「ごめんね」を引き出すような題材が多い感じがした。また、本年度中学校入学式の告示に引用された「北海道の町工場のロケットづくり」の植松努さんの言葉が教出、東書、学研に掲載されていた。日文は、別冊のことはさっきあったので省略するが、1学年は非常に優しい内容があり読みやすい感じがした。2学年は読みものが多いし、どちらかという国語の教科書のような感じもした。3学年は、あれもこれも入れ過ぎて何を学ぶのか少しまとまりがない印象をもった。学研は、小学校と同様に自ら考えさせる内容になっている。一切、考えるヒントになるものがない。だからどの学年も読みものが多くて、文字も少し小さく分量が多い。読むことに時間を要し理解することがどうかという印象が学研にはあった。それから東書は報告にもあったが、教材そのものが短くて分かりやすいところもある。工夫点はマンガなどもそうかとは思いますが、意外と東書は子供の作文を使っている。この子供の作文の内容がどうか、よく吟味する必要があるのではないかという感じがした。光村の場合も、これからの社会に対応する必要性があってこそそのことを考えていろいろ難しい課題も取り上げた内容が多かったなと思った。例えば個人では解決出来ない問題や特殊な事例などが、この光村はよく取り上げてあったと思う。もう少しどちらかという当たり前のことも含めて日常的に考える内容もあるといいのではないかなとも思ったが、ただ教科書だからこうした問題に取り組むということも必要であるということは理解できる。日本教科書は、特異な題材を取り上げていることが多いという印象を持った。将来のことを考えてこうした題材が多いのかもしれないが、ただ江戸時代のおしめや鍔掛屋などの知識あってもよいと思うが、どちらかという今日の課題であるごみ問題とか社会問題などを考えるほうが、現実性があるのではないかと。いろいろ取り上げられたものはあった。

○

小学校の選定の際に話題となった共通教材をどう扱っているのかということで見つめた時に、「2通の手紙」と「足袋の季節」があったと思うが、「2通の手紙」で言えば、例えば、あかつきは「元さんと2通の手紙」という他と違う表題をつけて、元さんの気持ちを考える仕組みになっている。東書はこの教材に「申し訳ありません」という記述があった。「足袋の季節」では、学図だけが「亡くなって」という表現を使っている。他の発行者は「死んで」という表現であった。そういう意味では、学図は少し心優しい面というか言葉にも気を付けているなと思った。学図には「私は」という言葉が最初に出てくる。それから書き出しについて着目する

と、日文、学研、教出、光村は「年をとったせいかな」と書いてあったように思う。

- 中身とは別に、形式においてあかつきでは、行をあけて考えさせられる言葉が挿入してあり、いわゆる行間のある工夫がしてあるなど思った。そんなこと等々、そういう中身のことも少し読んだ。

教育長 価値項目を最初にもってくること、これらはどうか。

- 最初で示すのはよくないという感じがした。答えを求めて、こうだという先入観で生徒は教材を読んでいき、教師が求める答えを出していくのではないか。

教育長 そういったことに対して、あかつきはそうになってないという選定委員会からの答申もあった。その他については、どうか。

- 一つ疑問だったのは、教材数をよく見ると東書は30プラス5である。その5をどう扱うかというのが学校も30でいいのではないかと思うことはないとは思いますが。付録を足して35になっている。光村が34プラス2、この扱いがどうなのかなど疑問に思う。他の発行者は35きちっと準備されている。

- 自己評価をする点でも若干段階をつけて評価をしている発行者もあるし、文章で自己の振り返りを書かせるという発行者もある。これは自己評価というところで、文部科学省が言っている、数値化して評価するという意味ではないと解釈した。それぞれの発行者が工夫されているのではないかと解釈した。

- 主題名が先にあるのかなのかについて実は迷っている。最初はない方がいいだろうと思って読んでいたら、やはり子供が迷った時にある程度あり、しかもマークとかを見てできる方がいいのかなという考えに変わった。でもやっぱりない方がいいのかなと選定委員会の答申を聞いて揺れ動いている。話が飛ぶかもしれないが、光村の発問を見ていたら国語の教科書のような感覚がして、作者の心情に戻れというのは国語ではないかなと思い、なんだか光村は国語の教科書という感じがした。そういう概念で読んでしまうせいなのかもしれないが。

- あかつきも教材末に格言が付いている。よく考えられた格言が付いているがそれが果たして良いのか悪いのか。ベビーカー論争はいいな、面白いなどと思って読んだが。これから中学生が向き合うようなことなので。それぞれに参考程度にきちっと格言がついて、それが果たしてどうかと。すごく考えられていることは感じた。

教育長 いろいろ意見が出たが、体裁についてもいくつか議論もあった。今回も手に取って扱いやすいとかそういうのは本質的な要素ではないが、それらも加味しながら、もし意見がなければまとめていきたいと思うがどうか。

全員 よい。

教育長 選定委員会からは東書とあかつきが候補に出された。また皆さんの意見から、別冊があるかないか、あるいは中身の面はどうか、さらには、教材を使った展開はどうか、道徳的な価値や道徳的実践力を深めるという点はどうか等が出た。皆さんの意見を総合的にまとめると、あかつきを採択すればよいと思うがどうか。

全員 よい。

教育長 それでは道徳はあかつきに決定する。以上検討したとおり、議案第45号「平成

31 年度使用中学校用教科用図書の採択について」採決を行う。賛成の委員は、挙手をお願いする。

全員

(挙手)

教育長

全員賛成なので、議案第 45 号「平成 31 年度使用中学校用教科用図書の採択について」は採択された。

事務局

ご審議いただき、ありがとうございました。

(午後 2 時 37 分終了)